

平成30年度診療分の医療費分析（令和2年度実施）について

令和2年度にKDBシステム及びNBDシステムのデータを利用して県内の年齢階層別・疾病分類別医療費の分析を行いました。今回の分析では、県民の健康状況及び生活習慣のリスクが高く、70歳代までの受診件数や医療費が全国との比較で高いことがわかってきました。疾病分類の内容を見ると、現役世代からの生活習慣病対策により、年配になってからも健康を保つことが、医療費適正化に必要不可欠であると思われま

す。健康保険制度は、受診した際の自己負担額と皆さんからの保険料、公費（税金）及び世代間の支援金で成り立っています。医療費の増大はこれらいずれか又は全ての負担増に繋がります。それを避けるためにも医療費の適正化は必要となります。

今後も医療費分析を進めるとともにより効果的な健康維持のための施策を検討すること、そしてそれを、全ての保険者及び事業主、被保険者全員で協力して実施することが必要です。

○医療費分析内容

1. H30年度診療分（令和2年度分析分）

(1)国保・後期高齢者の年齢階層別・疾病分類別医療費について

島根県の年齢別の疾病分類別医療費の構成と受診件数の全国との比較

医療費の大部分を占める高齢者医療費の適正化には、現役世代から健康になってもらうことが必要。

(2)NDBデータ（全保険者）の年齢階層別・疾病分類別医療費の全国比較

入院医療費は80～84歳までは島根県が高く、その後は低い。

入院医療費のうち、新生物の医療費が全国より特に高い傾向にある。

外来医療費は全国平均とそれほど差異は無い

(3)NDBデータ（全保険者）の新生物＜腫瘍＞の中分類疾病別・年齢階層別医療費の全国比較

新生物の医療費の中分類別の医療費の全国比較

(4)被保険者数と年齢構成の医療費との関係（国民健康保険・後期高齢者医療）